



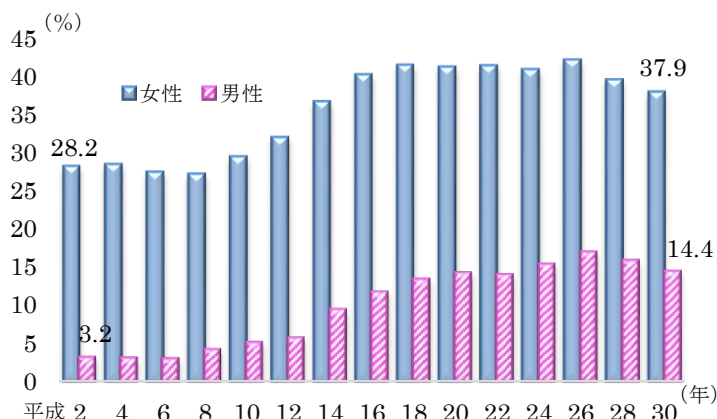
## 生きづらさを抱えて

### 若年女性の今

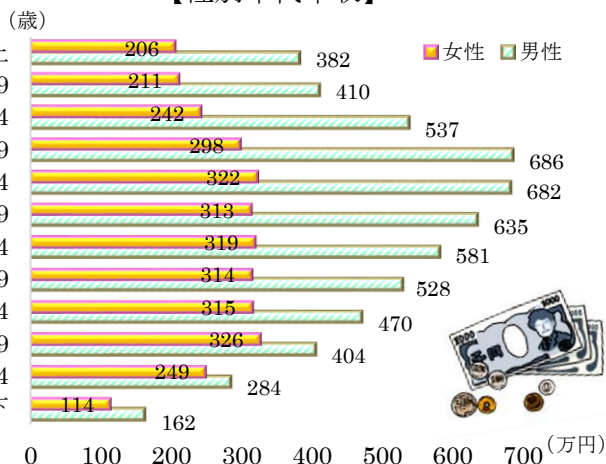


「女性活躍推進法」など女性施策の重点化が叫ばれ活躍する女性がふえる一方、ニート、引きこもりなど、生きづらさを抱え、将来に不安を感じる若い女性もいます。彼女たちは、家族と同居していることが多く、「家事手伝い」とされ、実態がなかなか見えにくいという現状があります。

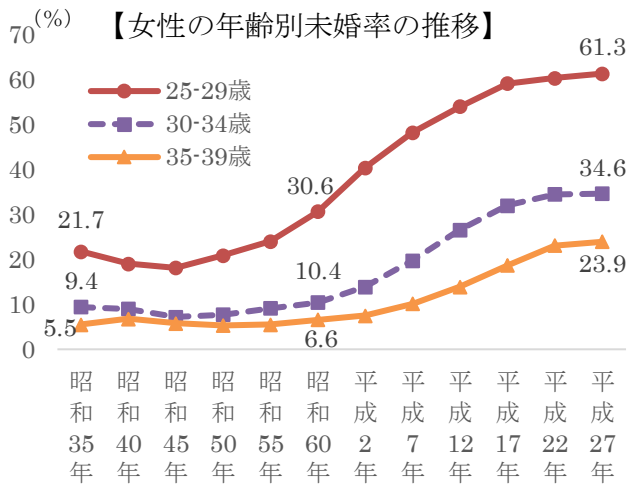
【非正規雇用労働者の割合の推移 (25～34歳男女別)】



【性別年代年収】

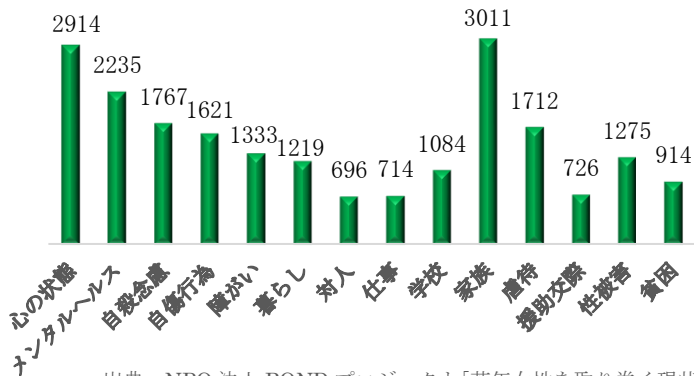


【女性の年齢別未婚率の推移】



【問題の背景要因】

面談・電話相談より(複数回答)2019年



出典：NPO 法人 BOND プロジェクト「若年女性を取り巻く現状」

若年女性は、家族と同居していることが多く、経済的にも家族に包摂されている前提で社会保障がつけられてきましたが、いま「家族」自体が揺らいでいます。

また、メンタルな問題を抱え込むことも多いといわれていますが、彼女たちの生きづらさは、本人の問題だけではなく、女性に非正規雇用が多く、低収入で不安定な就労状況による経済的な不安等も背景にあります。年々未婚率は上昇。単身高齢者となった場合の貧困化も懸念されます。

社会的孤立、貧困…。生きづらさを抱える若年女性たちに対して多くの誤解や偏見があります。

### 若年女性に寄り添い支援活動をしている団体

BOND プロジェクト：<https://bondproject.jp>

若草プロジェクト：<http://wakakusa.jp.net/>

ひきこもり UX 会議：<https://uxkaigi.jp>

女子高生サポートセンターColabo：<https://colabo-official.net/>

練馬区立男女共同参画センターえーるでは、若年女性のための講座を開催しています。

お問合せは☎03-3996-9007

<http://www.nerima-yell.com/>





### 「繊細さん」の本

武田友紀著  
飛鳥新社 2018

まわりの人が気づかない小さな変化を感じとり、ストレスを抱えてしまう敏感すぎる人（HSP）がラクに生きるにはどうしたらいいのだろうか？繊細な人に必要なのは、痛みやストレスに耐えられるよう自分を作り変えるのではなく、自分の本音をどれだけ大切にできるかである。

## 新着図書紹介



### グレタのねがい

ヴァレンティナ・キャメリニ著  
西村書店 2020

地球温暖化に対する警告を発信し、世界を動かしたスウェーデンの高校生、グレタ・トゥーンベリの物語。彼女は毎週金曜日、国会議事堂前で「気候のための学校ストライキ」と題したプラカードで、大人たちに環境問題への取組を訴えた。行動する勇気があれば、自身の未来を変えていくことができる。



### ダイエット幻想

磯野真穂著  
筑摩書房 2019

当初はやせ願望は若い女性だけに見られたものだったが、今は性別、世代に関係なくみられる人々の願望となっている。「やせ」はなぜ人々の心をこうもとらえて離さないのか。本書は、あなたのやせたい気持ちを否定するものではなく、やせたい気持ちとうまく付き合う方法を考えるための一冊。



### 被害と加害をとらえなおす

信田さよ子〔ほか〕著  
春秋社 2019

暴力はひとりでは成立しない。暴力は必ずふるう側とふるわれる側の二者から成り立っている。つまり暴力とは被害を受ける側に立って初めて名付けられるのだ。DV、性的虐待、薬物依存などのサバイバーである2人とカウンセラーである著者の言葉はずっしり重い。



### 女たちのシベリア抑留

小柳ちひろ著  
文藝春秋 2019

シベリアに女性も抑留されていたことはあまり知られていない。従軍看護婦、電話交換手、受刑者…数百人の女性が収容所生活を送ったという。なぜ彼女たちは「戦争」に巻き込まれたのか。70年の沈黙を破り証言する彼女たちの、帰国後の生活も穏やかではなかった。

## テーマで読む1冊

### ひきこもる女性たち

池上正樹著

男性のイメージが強い「ひきこもり」だが、女性の実態はどうなのか。統計上は、ひきこもっていても主婦や家事手伝いの女性などは数として含まれないという。「働きたいのに社会に出られない」男性と同様に「社会に出られずに生きづらさを抱えている」女性たちも数多くいる。統計からも消され、弱者にさえなれなかった女性たち。だが最近孤立していた彼女たちが声を上げはじめている。(KKベストセラーズ 2016)





# 時代を拓いた女たち

くぶしろ おちみ  
久布白 落実

1882年(明治15年)~1972年(昭和47年)

廃娼運動を指導した女性運動家。

明治15年父・大久保真次郎、母・音羽(徳富蘇峰、蘆花の姉)の長女として、熊本県鹿本郡に生まれる。父は新島襄門下の牧師で、明治22年群馬県高崎教会に赴任したため、落実は前橋共愛女学校に編入し、その後東京麹町的女子学院に進んだ。女子学院院長で、日本基督教婦人矯風会会頭であった矢島楫子は大伯母にあたり、明治36年卒業までの7年間楫子のもとで学んだ。女子学院は校則がなく、徹底した自治教育が行われていた。在学中自ら聖書を熟読し、生涯献身の生活を送りたいという思いが芽生えた。

卒業後、両親が伝道のため移住していたアメリカに渡り、パークレー太平洋神学校に入学。昼は学校に通い、夜は父の教会の英語学校で教えていた。オークランドの牧師と警部長に、日本人女性売春宿調査の通訳を頼まれ、移民街に同行すると、マッチ箱を並べたような部屋が20~30もつづき、窓は小さく、壁には三味線、そして落実と同年輩の顔色の悪い日本女性がダブルベットに腰かけていた。彼女たちは自由廃業を勧められても異口同音に「好きでしています。どうぞお帰り下さい」と答えた。その時の身を切られるような苦しさがその後の人生を決定し、廃娼運動の原点となる。

明治43年27歳で、同郷の牧師久布白直勝と結婚し、大正2年帰国。子育てと夫の仕事の手伝いに日々追われながらも、矯風会機関誌「婦人新報」を読んでいた。当時矯風会は遊郭廃止運動を繰り広げ、売

『ひとは性の奴隷となることなく  
主人となって生きてほしい』

春制度打倒をスローガンに掲げていた。移民街で見た前借金に縛られた女性たちの現状打破の強い思いを「婦人新報」に寄稿したことから、矯風会の総幹事に就任し、廃娼運動に関わることになる。大正9年、直勝は渡米中の過労から結核が悪化し、千駄ヶ谷に念願の新会堂完成直後、命尽きた。牧師なき教会の維持と莫大な負債、3人の子供たち、そして動き始めた廃娼運動。奈落の底で夫の蔵書をすべて読み、聖書と祈りの中で苦難を乗り越え前進する不屈の精神を得た。

落実は廃娼運動の啓発と資金活動のため「五銭袋運動」を考案し、講演会場や各地の会員により小さな袋を全国へと浸透させた。五銭カンパと署名をすることで廃娼運動を繰り広げ、10年間に五銭袋は40万個に達した。大正7年、矯風会は「大阪飛田遊郭新設反対運動」に持てる力をすべて結集させたが、敗北に終わる。「敗北の原因は我々に参政権がないからだ！法治国家にあって参政の権利を持たないのは、武器なしの戦争」とし、廃娼運動を女性参政権運動という政治課題に結びつけた。大正13年、婦人参政権獲得期成同盟会を結成し、市川房枝とともに中心的役割を果たした。昭和21年女性参政権が行使され、31年「売春防止法」によって、廃娼運動は結実。

晩年、孫に『あなたにただひとつの事を祈っている。それは一生かかってする生きがいある仕事を与えられることを…』と語っていた。昭和47年89歳、信念を貫き闘い続けた生涯を閉じた。

参考資料：「社会事業に生きた女性たち」「先駆者たちの肖像」

## 売買春防止への歩み

およそ75年前まで公娼制度の下、貧困と前借金にがんじがらめとなりモノのように売買され、自由を奪われていた女性たちがいた。幕府公認で江戸吉原、京都島原、大阪新町をはじめ全国各地に遊郭(集娼地区)が設けられ、人身売買や姦通罪などで強制収容され、厳重な監視の中で売春を強いられた。明治19年、矢島楫子ら56人は、禁酒・廃娼・平和を掲げ、日本で最初の女性団体「日本基督教婦人矯風会」を設立。機関誌創刊号に「醜業婦は我らが姉妹なり」と彼女たちへの思いを記した。まさに性の尊厳を求めた戦いのスタートであった。公娼制は昭和21年GHQが禁止するまで続き、昭和31年「売春防止法」が成立し、廃娼が実現した。

しかし現在もなお、貧困など複雑な要因から風俗、AV、援デリ、個人売春(ワリキリ)など性産業に携わる女性たちがいる。





# にゅーすBOX

3月8日は「国際女性デー」です

## 東京都 私立高授業料無償化拡大

東京都は、平成29年度から実施している私立高校授業料を無償とする制度について、令和2年度以降、対象世帯の年収を現行の「760万円未満」から「910万円未満」に拡大する。実質無償化制度は、国が支給する「就学支援金」に都独自の「特別奨学金」を上乗せし、都内私立高の平均授業料の相当額（46万1,000円）を支給する。また、子どもが3人以上いる世帯から高校に進学する場合、年収を問わず、都立高校の年間授業料の半額にあたる約6万円を助成する制度を新設する。

## 多胎育児 支援強化

厚生労働省は令和2年度から、双子など多胎児家庭に対する支援事業を始める。育児経験のある「多胎妊産婦サポーター」を多胎児の産前産後の家庭に派遣し、おむつ替えや家事を助けたり外出に同行したりする。ほかにも親同士が互いに悩みを打ち明けあう交流会なども開く。

さらに東京都は、多胎児家庭の乳幼児健診、予防接種などにかかる移動費や、ベビーシッター、家事支援ヘルパーなどの「家事育児サポーター」の利用料を補助する事業を始める。

## 就業最多 女性高齢者の就業増加

総務省の労働力調査によると、令和元年の就業者数は6,724万人（前年比60万人増）で、比較できる昭和28年以降で最多となった。このうち女性は2,992万人、65歳以上は892万人といずれも最多となった。

## 不育症検査 東京都助成

東京都は、妊娠しても流産や死産を繰り返す「不育症」の検査への助成を始めた。最大5万円を給付し、検査開始日の妻の年齢が43歳未満であることなどを条件に、今年1月から受付を開始している。

## 公立校の女性管理職 最高更新

文部科学省の調査で、令和元年度の公立小中高校などの女性管理職（校長、副校長、教頭）は1万2,808人で全体の18.6%となり、人数・割合ともに6年連続過去最高を更新。

## 練馬区 児童虐待への対応強化

練馬区は令和2年7月、練馬子ども家庭支援センター内に「練馬区虐待対応拠点」を設置する。都児童相談所の職員が定期的および必要時、虐待相談等に対応し、区の地域に根差したきめ細かい支援と、都の広域的・専門的な支援を組み合わせ、迅速かつ一貫した児童虐待への対応を目指す。

## ひとり親家庭 経済支援強化

「子どもの貧困」の改善に向け、政府はひとり親家庭の経済支援を強化するため、保険料や税の負担軽減、手当の増額などの関連改正法案を通常国会に提出する。「寡婦（夫）控除」の対象に未婚のひとり親を加える、障害基礎年金を受け取っているひとり親に児童扶養手当も受け取りやすくするなど。ひとり親家庭は増加傾向にあり、厚生労働省の推計では平成28年11月時点で141万9千世帯あり、約半数が貧困状態。

## 母乳バンク 整備へ

厚生労働省は「母乳バンク」について全国的に整備する方針を固めた。「母乳バンク」は、母親の母乳がでない場合などに、別の母親から寄付された母乳（ドナーミルク）を殺菌処理し、小さく生まれた赤ちゃんに無償提供する仕組みで、母乳を与えることで様々な病気のリスクを減らす狙い。国内では唯一、昭和大江東豊洲病院にある。

## 遺伝性乳がん予防切除に保険適用

遺伝性の乳がんや卵巣がんの患者が、将来がんになるリスクを下げるため、がんになっていない乳房や卵管・卵巣をとる手術（予防切除）が、4月から保険適用となる。切除や乳房再建のほか、遺伝子検査等も保険対象。令和元年8月までの1年間に乳房切除85人、卵管・卵巣は175人が受けていた。

## 世界の若年無業者 22%

国際労働機関（ILO）は、15歳～24歳で、仕事や通学をせず職業訓練も受けていない若者は、世界で約2億6,700万人に上り、この年齢層の22%あたるとする年次報告書を発表した。さらに、多くは有給で働いていても「標準以下の労働条件に耐えている」と警告している。

## フランス DV 抗議運動

世界的に女性の権利保障が進んでいるとされるフランスだが、平成30年にDVで殺害された女性は121人で、3年連続で120人を超えている。「家庭という見えない場所」での被害に、市民団体は「フェミサイド（仏語でフェミニシッド）」（女性殺し）と呼び、抗議運動を展開。運動はフランス全土に拡大、フェミサイドは社会問題化し、政府も配偶者などに対する暴力事件を再検証するなど、これまでの対策を見直し始めた。フランスを発火点にした抗議運動は今、各国に広がりつつある。

